

2019年5月24日

各 位

会社名 株式会社 あ さ く ま
代表者名 代表取締役社長 横 田 優
(コード番号: 7678 東証 J A S D A Q)
問合せ先 取締役管理部長 西 尾 す み 子
(TEL. 052-800-7781)

2020年3月期の業績予想について

2020年3月期(2019年4月1日～2020年3月31日)における当社グループの業績予想は以下のとおりであります。

【連 結】

(単位: 百万円、%)

項目	2020年3月期 (予想)			2019年3月期 (実績)		2018年3月期 (実績)	
	売上高 比 率	対 前 期 増 減 率		対売上高 比 率		対売上高 比 率	
売 上 高	10,063	100.0	6.5	9,447	100.0	9,440	100.0
営 業 利 益	837	8.3	31.7	635	6.7	844	8.9
経 常 利 益	861	8.6	26.8	679	7.2	874	9.3
親会社株主に帰属 する当期純利益	535	5.3	33.4	401	4.3	494	5.2
1 株 当 たり 当 期 純 利 益	105円24銭			85円29銭		104円94銭	
1 株 当 たり 配 当 金	20円00銭			—		—	

- (注) 1. 2018年3月期(実績)、2019年3月期(実績)の1株当たり当期純利益は、期中平均発行株式数により算出しております。
2. 2020年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募株式数(500,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。
3. 2019年3月期の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省第28号)に基づいて作成しておりますが、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査は未了であり、監査報告書は受領していません。

ご注意: この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書(並びに訂正事項分)」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

【2020年3月期業績予想の前提条件】

(1) 当社グループ全体の見通し

当社グループは、当社及び連結子会社（株式会社あさくまサクセッション）の2社で構成されており、飲食店の経営を主な事業として取り組んでおります。

当社の事業は「ステーキのあさくま」の店舗展開を主業態とするレストラン事業であり、「ステーキのあさくま」では、メインメニューであるステーキやハンバーグに和牛、国産牛、米国産牛、豪州産牛を使用し、一緒に新鮮なサラダ（サラダバー）を揃えております。また、原材料となる牛肉や野菜、ソースに至るまで、品質・鮮度にこだわった食材を追求し続け、バランスの取れた商品構成等を心がけております。加えて、中部地区を中心に、当社主業態であります「ステーキのあさくま」のブランドを活かした外販商品を販売しており、今後期待できるものとなっております。

連結子会社の株式会社あさくまサクセッションは、ビュッフェレストラン「ファーマーズガーデン」、モツ焼き居酒屋「モツ焼きエビス参」、カフェ「オランダ坂珈琲邸」、インドネシア料理「スラバヤ」、インドネシア風居酒屋「ワヤンバリ」等、様々な業態の店舗展開を行っております。

このような状況下、2019年3月期は子会社の直営店を1店舗退店したものの、新たに当社の直営店5店舗及び子会社の直営店1店舗を出店したため、2019年3月期末現在、当社の店舗数は直営店60店舗及びF C加盟店7店舗の計67店舗、連結子会社の株式会社あさくまサクセッションは直営店20店舗、当社グループ全体では計87店舗（F C加盟店を含む）となりました。これにより、売上高は9,447百万円（前期比0.1%増）となりましたが、パート・アルバイト平均時給の上昇の影響や人手不足による募集時給の上昇などで人件費が増加したこと等により、営業利益は635百万円（前期比24.7%減）、経常利益は679百万円（前期比22.3%減）、親会社株式に帰属する当期純利益は401百万円（前期比18.7%減）となりました。

2020年3月期の通期業績見通しにつきましては、売上高は10,063百万円（前期比6.5%増）、営業利益は837百万円（前期比31.7%増）、経常利益は861百万円（前期比26.8%増）、親会社株式に帰属する当期純利益は535百万円（前期比33.4%増）と見込んでおります。

(2) 個別の前提条件

① 売上高

当社は「飲食事業」の単一セグメントであり、店舗での売上が主な収益となりますが、その他にも外販やF C事業に係る売上があります。

2020年3月期は、当社9店舗、子会社1店舗、計10店舗の直営店出店と、子会社の直営店2店舗の退店を計画しているため、2020年3月期末現在の店舗数は、当社が直営店69店舗及びF C加盟店7店舗の計76店舗、連結子会社の株式会社あさくまサクセッションが直営店19店舗、当社グループ全体が計95店舗（F C加盟店を含む）と見込んでおります。なお、2019年5月22日に当社直営店「ステーキのあさくま」安城店を1店舗出店したため、2019年5月24日現在では、当社の直営店61店舗及びF C加盟店7店舗の計68店舗、連結子会社の株式会社あさくまサクセッションの直営店20店舗を展開し、当社グループ全体の店舗数は計88店舗（F C加盟店を含む）となりました。

このうち、当社グループの収益の多くを占める株式会社あさくまの店舗売上については、当期中に出店を計画する店舗を「当期新店」、前期中にオープンした店舗を「前期新店」、これらを除く店舗を「既存店」と区分して策定しております。

「既存店」および「前期新店」については、店舗ごとに曜日別の前期実績平均売上と当期の曜日別日数から想定月間売上予算を算出した後、前期の売上実績、店舗ごとの目標客単価を参考に調整し、売上高を策定しております。また、客数においては、策定した店舗別の既存店売上予算額を、前述の客単価で割り込んで算出した後、2019年3月期の客数実績と比べて無理な増え方かどうか（現実的な

ご注意：この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書（並びに訂正事項分）」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

客数かどうか)を店舗別に検証しております。2019年3月期は下期中に割引キャンペーンによる販促を継続して実施したため客数は伸びましたが客単価が低下し売上効果はさほど見られなかったため、2020年3月期は割引販促の内容を見直すことで、株式会社あさくま「既存店」の延べ来店客数は前期比1.5%減となるものの平均客単価は前期比0.5%改善すると予想しました。これにより、株式会社あさくまの「既存店」売上高は7,097百万円(前期比99.0%)を見込み、「前期新店」売上高は641百万円(前期比182.6%)を見込んでおります。「当期新店」については、新規出店を予定している10店舗のうち、当社の直営店が9店舗を占めておりますが、当期すでに出店情報が確定している「ステーキのあさくま」安城店については、立地・席数等を考慮して予測売上を策定しており、その他の店舗については、標準的な店舗規模を想定し「ステーキのあさくま」業態は月商10百万円を見込んでおります。以上の結果、当社の店舗売上高は8,240百万円を見込んでおり、子会社の店舗売上高1,238百万円と合計し、当社グループ全体の店舗売上高は9,478百万円を見込んでおります。

外売上は、レストランで評判の良いコンスープ、ドレッシング等商品の卸問屋への販売および通販サイト等での販売分がこれに当たり、前期と同水準を見込んでおります。

F C事業に係る売上は、2020年3月期にF C 1店舗の新規出店を見込んでおり、その加盟料およびロイヤリティ等が既存F C店の収益に加算されます。既存F C店は前期と同水準を見込んでおります。以上の結果、当社グループの総売上高は10,063百万円(前期比6.5%増)を見込んでおります。

② 売上原価、販売費及び一般管理費、営業利益

売上原価のうち、レストラン売上原価は前期実績を参考に、サラダバーの有無や各店舗の商圈の違い等を考慮し、各店舗で個別に設定した原価率で積算したものと、経営方針として全社ベースの目標原価率を摺合せ、決定しております。

なお、2020年3月期のレストラン売上原価率は、メニュー数の適正化、売価の見直し等を目的としたメニュー改定施策等により前期比0.8ポイント減を見込んでおりますが、粗利益率の低い外売上高及びF C売上高は前期とほぼ同水準で推移すると計画しており、また、新店出店等により売上全体に占めるレストラン売上の割合が増加すると計画していることから、2020年3月期の全社の粗利益率は前期に比べて上昇すると見込んでおります。

以上により、売上原価は3,990百万円(前期比2.4%増)を見込んでおります。

販売費及び一般管理費については、各業態の過去の推移を勘案したうえで売上の変動に応じて調整をした予算を組んでおります。主な費用の内訳に関しては以下となります。

人件費は、社員(固定人件費)とパート・アルバイト(変動人件費)に分けて算出しております。固定人件費は人員計画に基づき策定しており、前期比26人の増員を見込んでおります。一方、変動人件費となるパート・アルバイト給与については、パート従業員各人で労働時間が異なってきますので、人件費金額を構成する平均時給と労働時間をもとに前年同月のレストラン売上高比率を参考にしながら計画策定時現在の各店の人員配置状況を鑑み策定しております。近時の人員不足でパート・アルバイト最低時給や募集時給は上昇傾向にありましたが前期中で高止まりしたことから、人件費率は前期と同水準で見込み、人件費は2,563百万円(前期比7.4%増)を見込んでおります。

地代家賃、水道光熱費、支払手数料等その他の販売費及び一般管理費は、前期実績とほぼ同水準で策定しておりますが、新規出店に伴う固定費の増加分が見込まれることから、2020年3月期の販売費及び一般管理費は5,235百万円(前期比6.5%増)を見込んでおります。

以上により、営業利益は837百万円(前期比31.7%増)を見込んでおります

③ 営業外損益、経常利益

ご注意：この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書(並びに訂正事項分)」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

営業外収益の内訳は協賛金収入等の受取手数料、営業外費用の内訳は支払利息等であります。いずれも過去の実績を勘案しつつ当期発生すると見込まれるものを計上しております。

以上により、営業外収益は25百万円（前期比43.9%減）、営業外費用は1百万円（前期比45.7%減）を見込んでおります。

④ 特別損益、当期純利益

2020年3月期において特別利益は見込んでおりませんが、既存店改装工事に伴う固定資産除却損の発生により特別損失は7百万円（前期比76.4%減）を見込んでおります。

【業績予想に関する留意事項】

本資料に記載されている当社グループの業績予想等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上

ご注意：この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書（並びに訂正事項分）」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。